

横浜市立 南瀬谷小学校 学校評価報告書 (令和4～6年度)

重点取組分野	令和4年度		総括	重点取組分野	令和5年度		総括	重点取組分野	令和6年度		総括
	具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果	
生きて働く知	①課題解決学習を通して、目的意識をもって学習内容を習得し、適切にアウトプットしつづける能力を高めていく。教科領域を可能な限りリンクさせていき、学びに深みを持たせる。 ②学力層CD層が多い実態に合わせ、低学年においてMIMを通して、中学年は国語辞典を活用して確実に言語能力を高めていく。家庭学習や音読などの習慣も継続してつづけていく。	①課題解決をしたことを積極的にアウトプットする場面を作ってきた。児童が意欲的に学習できるよう各教科の教材研究をしっかりとしていく必要があった。 ②子どもの実態に合わせ、国語の「話す聞く」「書く」の学習内容を基本としながら、他の教科に関連付け計画的に取り組んでいく必要があると考える。MIMを取り入れてきたが学習意欲を高められるように工夫する必要がある。	B	生きて働く知	①誰もが安心して豊かに学べる授業づくりを目指す。学年研で研究する中で、課題を自分で選んだり決めたりするなどの、自己選択・自己決定を重視する。学力層CD層の多い実態を正面から見据え、「分かる」「できそうだ」を大事にした。個々人の学力の「伸び」に着目した授業展開については個別最適な学習として来年度の課題である。②特別支援教育の視点から、児童が何に困っているか、教師の見立てる力を育成し、子どものお困り感に寄り添った実践を学校全体に広げていくようにする。	①学年研を大切に、誰もが安心して豊かに学べる授業づくりを目指してきた。学力層CD層の多い実態を正面から見据え、「分かる」「できそうだ」を大事にした。個々人の学力の「伸び」に着目した授業展開については個別最適な学習として来年度の課題である。②特別支援教育の視点から、児童が何に困っているか、教師の見立てる力を育成し、子どものお困り感に寄り添った実践を学校全体に広げていくようにする。	B	生きて働く知	①個別最適な授業づくりを目指す。学年研で研究する中で、課題を自分で選んだり決めたりするなどの、自己選択・自己決定を重視する。学力層CD層の多い実態を正面から見据え、「分かる」「できそうだ」を大事にした。個々人の学力の「伸び」に着目した授業展開を積み重ねていく。②特別支援教育の視点から、児童が何に困っているか、教師の見立てる力を育成し、子どものお困り感に寄り添った実践を学校全体に広げていくようにする。		
豊かな心	①たてわり活動を充実させ交流を深める。4年目の活動として、それぞれの学年で目指すべき目標に近付けるスキルを定着させていく。 ②公開授業をする道徳を中心に、学年で教材研究に取り組み、さらなる子どもの変容を教育活動全体で見とって、豊かな心を育てていく。	①たてわり活動を充実させ、交流を深めた。それぞれの学年で目指すべき目標に近付けるようにしてきた。さらに交流を深め、よりよい人間関係づくりができていくようにしていく。 ②学年で教材研究に取り組み、子どもの変容を見取っていった。教育活動全体から、子どもたちの豊かな心を機会を捉えて育む努力をした。	A	豊かな心	①たてわり活動を充実させ交流を深める。5年目に入り、本校の特色ある活動として、それぞれの学年で目指すべき目標に近付けるスキルを定着させていく。高学年のロールモデルとしての活躍が目まざましいので、丁寧に継続していく。 ②誰もが自分が受け入れられていると実感できる、共感的な人間関係を、授業を含めた学校生活全般で醸成する。	①異学年交流を柱として、高学年がロールモデルになってのかわり合いを積み重ねていくことができた。②全体的に落ち着いた学年経営、学級経営を進めることができたが、教員が学年チームとして児童に共感的に接することができていたのが大きい。児童同士のかかわり合いの中で人権感覚を磨いていく取り組みを継続していき続けることは常に課題である。	A	豊かな心	①たてわり活動を充実させ交流を深める。上級生が良好なロールモデルとなっているので、それぞれの学年で目指すべき目標に近付けるスキルを定着させていく。 ②学年チームとして児童理解を進め、誰もが自分が受け入れられていると実感できる、共感的な人間関係を、授業を含めた学校生活全般で醸成する。		
健やかな体	①児童会活動を中心にあいさつ運動に取り組む、あいさつを返す習慣をさらに定着させる。あいさつカードを継続していく。 ②長縄フェスティバルや体力アップなど、児童主体の取組を計画的に実施して体力の向上に努める。	①教師から範を示して挨拶をするようにした。あいさつカードの効果があった。 ②体力アップは定着していると思う。自分は子どもと一緒に参加しているが、教員の意識に差がある。年度初めに、全校に対して話をしたり、説明をする時間が、必要だと考える。	B	健やかな体	①児童会活動を中心にあいさつ運動に取り組む、あいさつを返す習慣をさらに定着させる。登校班から自主登校に切り替わることもあり、あいさつできる児童の育成を重視する。 ②長縄フェスティバルや体力アップなど、児童主体の取組を計画的に実施して体力の向上に努める。	①児童会活動を中心にあいさつ運動に取り組む、あいさつを返す習慣を定着させてきた。あいさつできる児童の育成は、まちの中で生きる児童の育成の視点からも重要である。 ②長縄フェスティバルや体力アップなど、児童主体の取組を計画的に実施して体力の向上に努めた。	B	健やかな体	①ロング昼休みなど休憩時間の確保を確実にする。 ②児童会活動を中心にあいさつ運動に取り組む、あいさつを返す習慣をさらに定着させる。 ③長縄フェスティバルや校庭に出て体を動かす体力アップなど、児童主体の取組を計画的に実施して体力の向上に努める。		
地域連携 学校運営協議会	①PTAが区P市Pから脱退し、純粋ボランティア団体へと回帰したことを契機に、2つの連合町内会と連携を深め、日常的に地域の方が学校に行き来する関係づくりを構築する。その型を今年度創る。 ②持続可能な学童連活動、小中一体型の学校運営協議会を立ち上げる。協議会では、地域連携を中心軸として検討をしていく。	①小中一体型として年間協議会を運営できた。一体型にふさわしい会員となるように協議した。拠点防災訓練に児童生徒が参加できるシステムを構築していくことを今後のテーマとして確認した。②地域町内会の祭りなどが復活していくことを受け、より連携した取り組みをしていけるとよい。	A	地域連携 学校運営協議会	①南瀬谷小ボランティアによる活動が2年目を迎える。地域にも発信する中で、保護者、地域の方が当たり前のように来校し、学習生活の支援をすることができるように取り組んでいく。 ②小中合同学校運営協議会2年目に入る。拠点防災訓練に児童が参加できるよう、地域連携を深めていく。	①南瀬谷小ボランティアが軌道に乗る、必要なボランティアに多くの人が参画していった。広報となるInstagramも充実安定した活動をすることができている。 ②小中合同学校運営協議会2年目に入り、小学校・中学校での開催にも慣れてきた。それぞれの学校運営方針や総括を共有する中で、共通の課題に取り組んでいくように組織を充実させていく。	B	地域連携 学校運営協議会	①南瀬谷小ボランティアによる活動が定着した。地域への発信を重視し、保護者、地域の方が当たり前のように来校し、学習生活の支援をすることができるように取り組んでいく。 ②小中合同学校運営協議会3年目に入る。単位自治会での訓練への児童の参加を目指す。		
いじめへの対応	①学年研で児童の共通理解に時間をとったり、児童指導委員会や職員会議で児童や事業の共通理解を図ったりすることを重視し、多くの目で児童の育ちを見守ることにつなげていく。 ②いじめ防止対策委員会を中心に、ケース会議を開きいじめの未然防止、早期発見・対応を組織的に行う。	①学年研、児童指導委員会、職員会議等で児童についてや起きた事案についての共通理解を図ることができた。 ②いじめ防止対策委員会を中心に、ケース会議を開き未然防止、早期発見・対応を行った。さらに組織的な対応ができるように改善が必要である。	B	いじめへの対応	①いじめ防止対策委員会では、事案の共有だけではなく、対応の在り方について委員会として検討し実践する。人間関係に難しさを抱えている児童への配慮を重視する。 ②事案対応に迅速かつ組織的な対応を徹底する。聞き取り、連絡分担などをスムーズに行う。	①いじめ防止対策委員会では、事案の共有の後、具体的な対応についても検討していくことができた。教職員の人権感覚を高めていくことにも留意した。②聞き取りシートなど、より良い対応方法をすぐに取り入れて、組織的な対応ができるようにしてきた。	A	いじめへの対応	①いじめ防止対策委員会では、事案の共有の後、具体的な対応についても検討していく。教職員の人権感覚を高めていくこと、研修等を生かす留意する。 ②聞き取りシートなど、より良い対応方法をすぐに取り入れて、組織的な対応を継続していく。		
人材育成・ 組織運営(働き方)	①次のステージで活躍していける視野を広げるよう、校内分掌配置を行う。メンターによる教育実習生指導、エンター制による役割分担など、学年研の充実を図り、教材研究を共同で行う。教科担任制を年間通して行い、教材研究の充実を図る。 ②迅速な検討による、次年度をまたないPDCAシステムを構築し、より働きやすい職場づくりを進めていく。	①②働き方改革を進めたことで、学年研や教材研究の時間に少し余裕がもてるようになった。教科担任制は、高学年を中心に行った。今後は、ブロック単位での担任制も検討していく。	A	人材育成・ 組織運営(働き方)	①数年先を意識するような校内組織配置を行う。メンターによる教育実習生指導を行う。学年研の充実を図り、教材研究を共同で行う。教科担任制を年間通して行い、教材研究の充実を図る。 ②迅速な検討による、次年度をまたないPDCAシステムを構築し、より働きやすい職場づくりを進めていく。	①教職員のキャリア形成を意識した管理職面談を積み重ね、先を意識して業務にあたれるようにしてきた。全学年での教科担任制を試行したが、教材研究の共有を進める上で有効であった。②次年度をまたない業務改善を、OODAループとして重ねることができた。	A	人材育成・ 組織運営(働き方)	①教職員のキャリア形成を意識した管理職面談を積み重ね、先を意識して業務にあたれるようにする。全学年での教科担任制を進め、教材研究の共有を進めていく。②次年度をまたない業務改善を、OODAループとして重ねていく。		
a22											
a12											
a23											
a13											
a24											
a14											
a25											
a15											
ブロック内 評価後の 気づき	新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、南瀬谷中ブロックで全教科における授業参観を通じた研究を行った。また、参観した授業をもとに気づいたことを紙面形式ではあったがまとめたことで、情報交換や共有を行うことができた。昨年度より「誰一人取り残さない指導」を視点として2校で共通して取り組むこととしている。部活見学や部活体験は予定通り実施できたが、合唱祭や授業交流などは見送った。来年度は、あらゆる活動に制限がなくなるので、より充実したものにしていく。			ブロック内 評価後の 気づき	年間2回の小中合同授業研究会では、発達段階に合わせた9年間の姿を各部会に分かれて共有することができた。児童間で対話型の授業を積極的に促し、コミュニケーションをとりながら学習を進めていくことは、課題解決につながることを小中合同授業研究会でできた。小中連携研修会では、吉井奈々さんの講演会から「生き方の多様性、ジェンダーレスの考え方、児童一人一人が自分らしく生きるためには」をテーマに研修をした。生き方をテーマに様々な視点で議論をかわすことができたのは大きな成果であった。			ブロック内 評価後の 気づき			
学校関係者 評価	①朝食を80%以上の子が摂っていることは嬉しい。数%食べていない子のために捕食などを用意していることが素晴らしい。②コロナ前は、読み聞かせボランティアなどをしてきたが、高学年も目を輝かせて聞いてくれた。是非また復活させたい。③PTAがなくなりボランティアとなったことで、保護者の窓口がなくなる心配がある。活動をこまめにインスタなどで発信していくことで、つながりが途切れないようにしたい。手を挙げないが力のある保護者が参加するような仕組みを考えてほしい。			学校関係者 評価	①読み聞かせボランティアなど、コロナで中止となっていたボランティアが復活したのはよかった。ボランティアに積極的に参加する姿が見られるのもよい。活動の様子を地域にも発信していけるとよい。②どういった人材を世に送り出したいかを大事にして、児童を育成してほしい。社会に出るうえで基本となる挨拶については、教師自ら積極的に声をかけていくことが大事。③地域での防災訓練とのコラボについては、自治会ごとの訓練に参加するようにし、初期消火活動やけが人の応急措置について学べるように。			学校関係者 評価			
中期取組 目標 振り返り	昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止の対策を行いながらも、まちと関わり、自分たちの目標に向かって活動していくことができた。子どもたちも教員も「働き方を見直しながら」ということを常に意識しながら活動してきた。新型コロナがある状況と向き合いながら、今後も子どもたちの学びを深めていく取り組みを模索していく。			中期取組 目標 振り返り	アフターコロナの学校づくりとして、必要なものをクリエイティブに構築していくように心がけることができていた。学習においては、電子ドリルなどの普及が大きかったが、本校の児童にとって、何を重視するのがベストかはまだ不明点が多く、これからの課題である。学習指導を個別最適な形に進化させていくことも喫緊のテーマとなっている。そこへの教職員の意識はまだ低いと言わざるを得ないので、継続した働きかけが大事となっている。			中期取組 目標 振り返り			